

兵庫・道場塩田遺跡

- 1 所在地 兵庫県神戸市北区道場町塩田
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)七月～一九八五年一月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 黒田恭正
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～後期、平安時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(三田)

道場町塩田地区は、神戸市の北東端に位置しており、道場塩田遺跡は、有馬川・有野川・八多川・長尾川が形成した東西一・八km、南北二・六kmの沖積地上に位置している。

一九八一年(昭56)から、県営ほ場整備事業が当地域で実施されることになったため、一九八〇年に分布調査を行い、一九八一年に確認調査を実施し、遺跡であることが確認された。

現在までに(1)弥生時代の住居跡、(2)石庖丁を製作していたと考えられる遺物、(3)遺構は発見されていないが古墳時代中期から後期の遺物、(4)平安時代～鎌倉時代の遺構・遺物が発見されている。

木簡は、平安時代後期～鎌倉時代初めごろの土壌から出土した。

8 木簡の釈文・内容

木簡は三点出土したが、材質は似ており、同一木簡の一部であった可能性がある。うち一点は上端から五・三cm残存し、切り込みがある。三点とも文字が書かれているようであるが、判読できなかった。

(黒田恭正)

『下野国府跡 資料集Ⅰ』の刊行

下野国府跡から出土した木簡については、本誌でもしばしば紹介されていたが、このたび『下野国府跡 資料集Ⅰ』としてまとめられた。下野国府跡の発掘調査と木簡出土遺構の概要、出土木簡の釈文と一部の写真図版等が収載されている。例言によれば下野国府跡出土遺物(木簡・漆紙文書)の整理用資料であるとのことである。写真図版の完備した正式報告書の刊行が待たれる。

栃木県教育委員会・栃木県文化振興事業団発行
『下野国府跡 資料集Ⅰ(木簡・漆紙文書)』

(B五版 三八頁 一九八五年三月刊 非売品)